

■【トピックス】

汚染水の海洋流出！



参議院選挙直後に、放射能に汚染された地下水の海洋への流出が発表されましたが、今度は高濃度の汚染水のタンクからの流出です！

この問題は深刻です。高濃度汚染水の流出を止める手立てが今のところないからです。

2年前から急ごしらえのタンクでは、2年程度しかもたないといわれていました。もはや事故処理を東京電力に任せておくことはできません。危機を大きくするだけです(怒)

■【ビジネス・アイ】

公認不正検査士

社長 「この前、新聞を読んでいたら不正検査士という資格の記事があったけど知っている？何でも企業不祥事の調査をする資格みたいだけど」

花野 「公認不正検査士のことですね。そもそもはアメリカで生まれた資格で、2005年に日本でも導入されましたね。『公認』と付いていますが、あくまでも日本では民間の資格です」

社長 「そうなんだ。でも社内で起きた不正事件の調査をしてくれるんだよね」

花野 「そうです。犯罪心理学や犯罪調査の手法に関する専門的な知識をベースに面接調査などを行います。また、不正事件の調査だけでなく、不正を起き難くする防止策の提言などもしてもらえますよね」

社長 「そうなんだ。不正は起きないことに越したことはないよね」

花野 「そうですね。不正は起きなければ誰も嫌な思いをしなくて済みますからね。不正が起きるときには3つの要因があるといわれています」

社長 「それ教えてよ」

花野 「まずは動機です。お金に困っているとかがですね。次に機会です。容易に現金に触れられるとかがですね。最後に正当化です。こんなことは他の誰でもやっていることだとかがですね」

社長 「そうか！不正を起こさせないためには、この3つに気をつけなければいいんだね」

花野 「そうですね」

■【今月のキーワード】

公認不正検査士

公認不正検査士（Certified Fraud Examiner）とは、企業不正など主に経済不正に対処する専門家です。会計知識、法律知識、犯罪心理学および調査手法に豊富な知識とスキルを有する者で、かつ米国に本拠地を置く公認不正検査士協会（The Association of Certified Fraud Examiners）の会員のことをいいます。

アメリカにおいて公認不正検査士が活躍した事件としては、ワールドコム不正会計事件などが有名です。

■【今月の1冊】

『オグリズム』

小栗 成男 著

日刊自動車新聞社 ¥1429

トヨタ・ディーラーのカリスマ営業マンがそのノウハウと心構えを明かした本です。ちょうど13年乗った愛車を買替えるので、営業マンを観察するときに参考にしました。

前半は、商談における即断を促す秘訣について書かれています。後半は著者の経験と人間力について書かれています。一貫しているのは、著者のスタイルです。男はカッコ良くですね。



■【編集後記】

夏は毎年、石垣島にスキューバ・ダイビングに行きます。この時季、心配なのは台風です。今回は最終日に石垣島近くの熱帯低気圧が台風になりました。その影響で帰りの飛行機が遅れて那覇での乗り継ぎに失敗し2時間遅れで帰ることになりました。

『経営のセカンド・オピニオン』vol. 78（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2013.9.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL052-205-6361 FAX052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>